

トマス・ワレン：『リヴァイアサン』（ヘッド版）の印刷者

Thomas Warren : a printer of *Leviathan* (head edition)

元跡見学園女子大学教授

Formerly professor of the Atomi University

高 野 彰

TAKANO, Akira

Abstract

Thomas Hobbes' *Leviathan* (head edition) was published in 1651 by Andrew Crooke. It has two other editions, Bear edition and Ornament edition.

Head ornament is used on 36 books and pamphlets between 1636-62 which show sometimes four printers' names. First printer is John Norton, second Alice Norton, third Thomas Warren and fourth Alice Warren. Alice is John's wife. After his death she begins to print. Alice remarried Thomas Warren in 1642 and he begins to print in 1643. Warren is dead in 1661, but Alice begins to print from 1660. These four printers are members of John's family, and they continued to use the head ornament for a long time.

Their head ornaments are distinguished by a slender face, a pointed leaf at the upper center and a bundle of clothes. These characteristics are shown on every head ornaments on Table 1. After 1645, a damage at the upper right corner is added to these.

But head ornament was used by two other families. First is Bonham Norton and his child Roger Norton. Second is Christopher Barker and his eldest son Robert Barker. Their head ornaments are distinguished by a round face, a flower bud at the upper center and a bundle of clothes with fringes.

Leviathan's head ornament is distinguished by a slender face and a damage at the upper right corner. It is the same head ornament as John Norton family's and a printer of the family in 1645-66 is Thomas Warren. So *Leviathan's* head ornament was printed by Thomas Warren. If Roger Norton prints it, he should not use John's ornament but Roger's ornament, that is, the ornament with a round face, a broken flower bud without a damage at the upper right corner.

Leviathan has another big ornament (crowned head ornament). But any examples by John Norton's family can not be found.

In 1649 Roger Norton printed *The great exemplar of sanctity and holy lives* with a crowned head ornament (Wing T342) (sig. a1r). Its ornament has a small damage at the left flanked stalk upon a small head. Since then, its damage is shown on Wing A3147 (sig.*1r) (1650), T405 (sig.A1r) (1651) and J91 (sig. a2r) (1653) and others. But *Leviathan's* crowned head ornament has not a damage at the same place. So Roger is not a printer of the crowned head ornament of *Leviathan* (head edition).

Second half of Leviathan (head edition) begins with mermaid initial I. It has a damage near the upper center of the border. Richard Cotes used a same damaged mermaid initial I (Wing L2071). So he is the printer of the mermaid initial I of Leviathan (head edition).

On table3, Letter 'm' is recurred between sig. 2C-2Z, and letters 'c' and 'd' are recurred between sig. E-2B. But letter 'm' is not used before sig. 2B and letter 'c' and 'd' are not used after sig. 2C. Then, Leviathan (head edition) is divided into two and composed by two compositors.

Adding the fact on the printers of head ornament and mermaid initial I to these, it comes to a conclusion that Leviathan (head edition) is divided into two and first part (sig.A-2B4) is printed by Thomas Warren and second part (sig. 2C-3D4) by Richard Cotes.

Signature A consists of outer and inner sheets. But some inner sheet is turned inside out by mistake and folded. So some sig. A are misbound as A1, A3, A2, A4.

Signature A4's text of Leviathan (head edition) begins with 'THE INTRODUCTION'. 'THE' is printed by two kind of types. Roman capital is the first print with signature 'B' and swash italic capital is revised print without signature 'B'.

Keywords

Thomas Hobbes (トマス・ホッブス),
Leviathan (head edition) (『リヴァイアサン』(ヘッド版)),
Thomas Warren (トマス・ワレン), Bibliography (西洋書誌学), Printing history (印刷史)

トマス・ホッブス (Thomas Hobbes) は17世紀の哲学者である。彼は1588年にイギリスで生まれた。この時代はイギリスにとって激動期である。彼が活躍し出す頃はクロムウエルの革命期に当たり、難を逃れてフランスに亡命する。そのときに執筆したのが旧約聖書ヨブ記にでてくる海獣レビヤタンからその名を取った『リヴァイアサン』(Leviathan) である。

この本は彼が亡命先のパリでゲラを校正し、イギリスで1651年にアンドルー・クルク (Andrew Crooke) から出版された。印刷者名はない。出版自体は禁止されなかったが、教会を痛烈に批判したことから、発禁となる。お陰でイギリスの日記作家サムエル・ピープス (Samuel Pepys) はこの本が「元来値段は八シリングだったので、わたしは中古品に対して二十四シリング出したが、三十シリングで売られている」と書いている (注1)。

二種類の海賊版が出たのも発禁が要因となったと見て良い。この二点は、海賊版と言うこともあって、書名、出版社名、刊年がそのまま示された。そのため最初の本を含めた三点は扉を飾っている

オーナメントによって識別、呼称されることになる。「人間の頭」で飾った「ヘッド版」(head)、枝を抱えて立っている「熊」を飾った「ベア版」(bear)、「小さな図柄」を三列並べた「オーナメント版」(ornaments) である。ヘッド版が真正版、残りの二点が海賊版ということになる。本稿ではこのヘッド版の印刷について考察する。

この本は次のような構成になっている。

Folio in 2: engraved title leaf, A-Z4, Aa-Zz4
Aaa-Ddd4, folded broad printed table

1. Engraved title leaf:
[A1r] Title page (図1)
[A1v] [blank]
A2^r TO | MY MOST HONOR'D FRIEND Mr
FRANCIS GODOLPHIN | of Godolphin.
[A3r] The Contents of the Chapters.
[A3v] *Errata*.
- [A4r] [headpiece ornament] *THE* |
INTRODUCTION. (pp.1-2)
3. B1r-Dddv (pp.3-396): text

1636-62年のヘッド・オーナメント

ノエル・マルコム (Noel Malcolm) は『リヴァイアサン』(ヘッド版)の前半部分 (sig. A-2B⁴) をロジャー・ノートン (Roger Norton)、後半部分 (sig. 2C-3D⁴) をリチャード・コートツ (Richard Cotes) が印刷したと述べている。その決め手としたのが国王 (Crowned head)・オーナメントと「人魚飾りのイニシャル」I に生じた欠損の有無であった。しかし『リヴァイアサン』(ヘッド版) と呼称する由来となったばかりでなく、印刷者を特定する最も重要な判断要素となるヘッド・オーナメントについては一言も触れていない。他の例を未見だからと言う。そしてジャクソン (W.A. Jackson) もロジャー・ノートンとリチャード・コートツが印刷者だと、根拠を示さないままに言っている (注2)。本項では彼らの主張を再検討し、印刷者を特定する予定である。

図1は『リヴァイアサン』(ヘッド版)の扉であり、ここにはヘッド・オーナメントが示されている。これまでこのオーナメントの全貌が語られることはなかった。しかしEEBO (Early English Books Online) というデータベースで、「s.n.」(出版者や印刷者名が表示されていない、と言う意味の略表示)などを検索語にして検索すると、表1に示したように、非常に興味深い結果が得られる。このオーナメントは36点もの本や小冊子で、1636-62年という長期に渡って使われ続けたばかりでなく、時には、4人の印刷者名が示されていることも判明した。この4人とはどんな人物であろうか。

1. London, Printed by John Norton, 1636 (STC.1349) (図2)
2. London, Printed by A.N. 1641 (Wing C1641) (図3)
3. London, Printed by T.W. 1646 (Wing C1943) (図4)
4. London, Printed by Alice Warren, 1662 (Wing D2481) (図5)

一人目はロンドンの印刷者ジョン・ノートン (John Norton) である。彼は1621-40に活躍し (注3)、ヘッド・オーナメントを1636-39年に使っている。

二人目の人物「A.N.」はアリス・ノートン

(Alice Norton) と言い、ジョンの妻である。ジョンが1640年に死去すると、彼女は彼の跡を継いで印刷業を始める。しかし彼女がヘッド・オーナメント付き出版物を自分の名前で出したのは1641-42年のことであった。

三人目の人物は「T.W.」、即ち、トマス・ワレン (Thomas Warren) である。ジョンの死後、アリスは1642年に再婚する (注4)。その相手がワレンであった。1662年の図5は、印刷者が「Alice Warren」だと言っているし、1646年の図4や1649年の図6は「T.W.」(トマス・ワレン) がヘッド・オーナメント付きの印刷をしたことを示している。アリスがワレンと再婚し、ワレンが印刷業を引き継いだことがわかる。トマス・ワレンは1643年から、死去するまで、ジョンの印刷所を切り回していた。

最後がアリス・ワレン (Alice Warren) (アリス・ノートンの再婚名) である。ワレンは1661年に死去するが、その前年からアリスは印刷業を再開した (Wing 2581A)。もっとも、上記4に示したように、ヘッド・オーナメントを使ったのはそれから2年後の1662年のことになる。しかしこの印刷所は1666年のロンドンの大火で焼失してしまう (注5)。前述した4人はいずれもジョン・ノートンの家系のものであり、その彼らが連続としてヘッド・オーナメントを使い続けてきたことがわかる。

彼らのヘッド・オーナメントはどんな特徴もっているのであろうか。図2-6を見ると、印刷者名の示されているヘッド・オーナメントの顔は細長い。オーナメントの上部中央は先の尖った木の葉で飾られ、左右から始まる布の束は下部で大きく垂れ下がることから、中央で一回束ねられている。これらの特徴は、図7 (Wing B462) のように、印刷者名の示されていないヘッド・オーナメントにも共通するので、表1に示したヘッド・オーナメントはすべて同一の図柄になる。

1645年からは特徴がもう一つ追加される。図9からわかるように、この年に印刷されたオーナメントの右上端付近に欠損が生じ、最後の1662年 (図11) までの全ヘッド・オーナメントが同じ状態にあるからである。欠損の有無は図7や図8と1645年の図9を比べればわかる。

細長い顔と丸い顔のヘッド・オーナメント

これまでジョン・ノートンの家系で用いていた「ヘッド」オーナメントについて述べてきた。しかしヘッド・オーナメント（のデザイン）を使っていたのはジョンの家系だけではなかった。ジョン・ノートンの遠縁に当たるボナム・ノートン（Bonham Norton）（図12）（1619年）とその子ロジャー・ノートン（Roger Norton）（図13）（1654年）の家系も使っている。もう一つは図14（1585年）や図15（1596年）に示したように、初代クリストファー・バーカー（Christopher Barker）に始まり、長男ロバート（Robert Barker）（STC. 1133）（1601年）へと繋がっていく家系である。

図12-15からわかるように、両家のオーナメントはいずれも丸顔である。上部中央の飾りは丸い蕾の形をし、下部に垂れ下がった布束にはフリンジが付いている。クリストファーの場合、丸い蕾は当初壊れていなかったが（図14）、1596年には壊れている（図15）。ボナムの場合は、最初から丸い蕾が壊れている（図12）。それに対して、ジョンの家系のオーナメントは尖った木の葉とフリンジの付かない布束なので、彼らのとでは明確に識別できる。表1はいずれもジョンの家系のヘッド・オーナメントと見て良い。

では『リヴァイアサン』のヘッド・オーナメント（図10）はどんな状態にあるのであろうか。『リヴァイアサン』の図10も1645年の図9と同じ箇所欠損が見つかる。ヘッド・オーナメントの顔は細長く、上部中央は尖った木の葉で飾られ、下部の垂れ下がった布束にフリンジは付いていない。図10は図9と同じ版面（block）で刷られたと見て良い。このデザインはジョンの家系のオーナメントに合致する。ジョンの家系ではワレンが1643年から印刷業を引き継ぎ、1661年まで業務を続けている。従って1651年に出版された『リヴァイアサン』（ヘッド版）のヘッド・オーナメントはトマス・ワレンが印刷したことになる。前述したように、マルコムはロジャー・ノートンが印刷したと言っているが、もし彼が印刷したのであれば、ジョンの家系のオーナメントではなくて、自分の家系のオーナメント、即ち、右上端付近に欠損が無く、丸顔で、壊れた蕾のヘッド・オーナメントを使ったのではないだろうか。

国王・オーナメント（Crowned head ornament）

『リヴァイアサン』（ヘッド版）はヘッド・オーナメントの他に、もう一つ大きなオーナメントを使っている。図16に示した国王・オーナメントである。しかし現在のところ、ジョン・ノートンの家系の人物がこのオーナメントを使った事例は見つかっていない。

マルコムはロジャー・ノートンが印刷した1650年の「Wing A3147」中の国王・オーナメント（sig. *1r）（図18）が『リヴァイアサン』（ヘッド版）の図16と全く同じだと言い、ロジャーを『リヴァイアサン』（ヘッド版）の印刷者と見なしている（注6）。

そこでロジャーの用いた国王・オーナメントを辿ってみよう。古くは1649年の図17（Wing T342）（sig. a1r）がある（注7）。この図の中心より左側に小さ目の側顔があり、それを覆った房の最上部が欠けている。この出版物についてマルコムは何も言っていないが、1650年の「Wing A3147」（sig. *1r）（図18）には欠損がないと、言っている。しかし図18からわかるように、これにも欠損が見える。その後も1651年の「Wing T405」（図19）（sig. A1r）、1653年のWing「J91」（sig. a2r）、1654年の「J89」（sig. a1r）、1656年の「S640」（sig. A2r）などと欠損オーナメントの使用が途切れることはない。ロジャーは1649年から欠損のある国王・オーナメントを使い続けてきたことがわかる。ところが1651年の『リヴァイアサン』（ヘッド版）の国王・オーナメント（図16）には欠損がない。ロジャーは『リヴァイアサン』（ヘッド版）の国王・オーナメントを印刷していないはずである。

人魚飾りのイニシャル（Mermaid initial I）

『リヴァイアサン』（ヘッド版）の後半（sig. 2C-3D4）の冒頭は「人魚飾りのイニシャル」Iで始まる。図20である。この絵は太い枠で囲まれ、上部中央付近は欠けている。これと同じ状態のイニシャルIを使っているのがリチャード・コーツである。図21（Wing L2071）は1650年に彼が印刷した出版物中のイニシャルであり、同じ箇所欠損が見られる。そして図22（Wing L2060）は同年の別の出版物のイニシャルであるが、これには欠損がない。欠損は1650年に生じたことがわかる。『リヴァイアサン』（ヘッド版）中の「人魚飾りの

イニシャル」Iはコートが印刷したと見て良い。

植字工 (Compositor)

本稿で「印刷者」と言ってきたが、それは一作業者の意味ではなくて、印刷所を指している。そして次に述べるのはその印刷所での植字工の作業である。『リヴァイアサン』(ヘッド版)に使った特徴のある活字がどのページのどの活字に出現するかを示したのが表2であり、それらを視覚的に示すと表3になる。表3を見ると、活字「m」は折丁2C-2Zで繰り返し使われている。そして活字「d」と「c」の2字は折丁E-2Bを網羅している。しかし活字「m」が折丁2Bより前に使われることはないし、活字「d」と「c」が折丁2C以降に使われることもない。これは『リヴァイアサン』(ヘッド版)の植字工が2人いて、彼らが折丁2Bと2Cを境にして前半(sig.A-2B⁴)と後半(sig.2C-3D⁴)に2分割して作業したことを示している。

これに、ヘッド・オーナメントとイニシャルIの使用者を重ね合わせると、『リヴァイアサン』(ヘッド版)の印刷作業は前半(sig.A-2B⁴)と後半(sig.2C-3D⁴)とに二分割され、前半はトマス・ワレン、後半はリチャード・コートが分担したと言う結論になる。先に、『リヴァイアサン』(ヘッド版)の前半部分の担当者はロジャー・ノートンとする、マルコムやジャクソンの主張を提示した。しかし異なった結果になったことは明らかである。

折り畳み違い (Misfolding)

『リヴァイアサン』のA折丁は二折の紙を2枚重ねて一折丁にしている。つながり具合はA1とA4そしてA2とA3であり、後の一対が内側になる。正常に折り畳めば、各紙葉はA1、A2、A3、A4と順番に並ぶはずだが、下記に示した順序に並んだ本がある。

[A1r] title page

[A3r] The Contents of the Chapters.

A2r TO | MY MOST HONOR'D FRIEND Mr
FRANCIS GODOLPHIN | of *Godolphin*.

[A4r] *THE* | *INTRODUCTION*.

本来であれば、一対の紙を2枚重ねて山折りにすれば、折記号順そしてページ順に並ぶ。ところ

が、内側の一対を裏返しにして山折りにしたことから、上記のように、折丁内の順序が狂ってしまったのである。

誤植訂正 (Misprint)

A折丁の[A4]は「THE INTRODUCTION」であるが、この「見出し」は2種類の活字で刷られている。

1. *THE* | *INTRODUCTION* 折記号Bあり (図23) Roman

2. *THE* | *INTRODUCTION* 折記号Bなし (図24) Swash italic

図24からわかるように、「THE INTRODUCTION」はSwash italicで印刷する予定であったが、植字工が「THE」をローマン体で組んでしまった(図23)。そして印刷中にそのことに気づき、「THE」をSwash italicで組み直した。それが図24である。

「A4」の表ページの指示語の行には折記号「B」も示されていた。そこで「THE」を修正するのに合わせて、折記号「B」を削除し、印刷し直した。そのためA4の表ページは2種類出来てしまった。図23が修正前、そして図24が修正後の印刷と言うことになる。これまでのところ、どちらか一つだけを修正したという例は見つかっていない。修正は二カ所同時に行われている。

日本の大学図書館における『リヴァイアサン』(「ヘッド」版)の所蔵一覧

表4は日本の大学図書館で所蔵する『リヴァイアサン』(「ヘッド」版)の一覧である。ここには本稿で指摘した点も盛り込んでいる(注8)。

最後に

本稿を執筆するに当たり、多くの方から援助を頂いた。中でも名古屋大学附属図書館研究開発室の中井えり子氏からは本稿を執筆する機会を与えていただいた。同図書館情報サービス課調査支援係には資料の収集でお手数をおかけした。そして東京大学経済学部資料室の援助も忘れることは出来ない。こうした方々からの援助がなければ、本稿はまとめられなかったかもしれない。心からお礼を申し上げます。もっとも、内容については至らないことも含めてすべて筆者の責任であることは言うまでもない。

注

- ・図版は特に但し書きがなければ、EEBOからの引用である。
- 1 ピープス、サミュエル『サミュエル・ピープスの日記』岡照雄，海保眞夫訳 東京：国文社，2003。第9巻 p. 310.
 - 2 Malcolm, Noel, ed. Thomas Hobbes. *Leviathan*. Oxford, Clarendon Press, 2012. Vol.1 Editorial introduction. pp.211-3. Jackson, W.A. Carl Pforzheimer Library. ii, pp.492-3
 - 3 Pollard, A.W. & Redgrave, G.R. *A short title catalogue of books printed in England, Scotland, & Ireland and of English books printed abroad. Vol.3: A printers' and publishers' index ...* by Katharine Pantzer... London, Bibliographical Society, 1991. p.127.
 - 4 Greg, W.W. 'Alice and the stationers' *Library* 4th ser. 15 (no.4) (1935). pp.499-500.
 - 5 Farr, Harry. 'Philip Chetwind and the Allott copyrights' *Library*. 4th ser., vol.15 (no.2) (1934), p.160.
 - 6 印刷年は1645年と表示されているが、EEBOでは1649年となっている。
 - 7 Malcolm, Noel, ed. Thomas Hobbes. *Leviathan*. Oxford, Clarendon Press, 2012. Vol.1 Editorial introduction. p.212.
 - 8 この表は川又祐「ホッブズ『リヴァイアサン』初版Head版（一六五一年）の異刷について」『政経研究』（日本大学）第51巻第1号（2014年6月）表2を参考に作成した。

表1：ヘッド・オーナメント

	年度	番号	印刷者	出版社	Head	Beast	書名
STC	1636	1349	John Norton		○		A sermon preached at Paul
	1636	1503	John Norton	Robert Wilson	○		Ram-Alley
	1637	1350	John Norton		○		A sermon preached at Paul
	1638	19303	John Norton		○		The rose, and lily
	1639	10217.5	John Norton		○		Articles to be inquired
Wing	1641	B462			○	○	A large supplement of the Canterburian
		B5334			○		The Duke of Buckingham
		C1941	A.N.	Robert Lunne	○		Bussy D'Ambois a tragedie
		D1921			○	○	Two speeches spoken jn the house
		E186			○		A letter of that most religious
		E2679B			○		The petition of the House of Commons
		H2475			○	○	The speech of Denzill Hollis
		M2731			○		A prisoners letter to the Kings most
		O606	A.N.		○	○	Ovatio Carolina. The triumph of King
		P3865			○	○	The protestation of the archbishop
		P4300			○		Ten propositions delivered by Master
		R2197			○		Sir Beniamin Rudyerd his speech
		S1001AD		Nath Butter	○		The charge of Scotland
		S3416	A.N.	John Francklin	○		The charitable pestmaster
		S5943			○		An argue, which hitherto amongst all
		U15			○		The true form of church government
	1642	A3538			○		Apologeticall animadversions of certaine
		C6171			○	○	A copie of a letter written from His
		G955	A.N.	Richard Lownds	○		Gods good servant, and the kings good
		I1042	A.N.	H.T.	○	○	The Irish occurrences, or A true relation
		U16			○		The true form of church government
		W1186	A.N.	Richard Lownds	○	○	A preparative for the fast
	1645	C4346		Joshua Kirton	○		The city alarum, or the weeke of our
	1646	C1943	T.W.	R. Lunne	○		Bussy D'Ambois a tragedie
	1648	L559			○		The late storie of Mr. William Lilly
	1649	S5199	T.W.	Tho. Knight	○		Stanbrigii Embrion relimatvm
	1650	B4892			○		The spoiles of the forest of Deane
	1651	G700		Joshua Kirton	○	○	The truth of the Christian religion
		H2246		Andrew Crooke	○		Leviathan
	1662	D2481	Alice Warren		○		The history of imbanking and drayning
		N868	A. Warren	John Martyn	○		Playes written by the thrice noble,

表2：活字の出現場所

A	2H1r, 48(⟨A⟩rts)	2K1v, 10(⟨A⟩braham)	2N3r, 26(⟨A⟩postles)
C	S1r, 18(⟨C⟩ommon) 2B4r, 22(⟨C⟩onstitution)	U1v, 19(⟨C⟩ommand)	Y1r, 28(⟨C⟩om-
D	E2r, 13(⟨D⟩eliberation) S1v, 29(⟨D⟩ebate)	G1v, 31(⟨D⟩ishonourable)	M2r, 30(⟨D⟩ominion)
I	K2r, 16(⟨I⟩mpossible)	P2v, 47(⟨I⟩nstitution)	T3r, 2(⟨I⟩nterpreters)
m	2C1v, 30(Drea⟨m⟩) 2L2r, 38(ca⟨m⟩e) 2R4v, 19(hi⟨m⟩self)	2F2r, 12(Co⟨m⟩memoration) 2N4v, 36(⟨m⟩ade) 2Z3r, 40(I⟨m⟩position)	2H4v, 30(Exe⟨m⟩plary) 2P2r, 28(Supre⟨m⟩e)
y	2N4v, 28(an⟨y⟩)	2P1v, 18(B⟨y⟩)	2X3r, 24(ma⟨y⟩)

表 3 : 活字の発生場所

A				B				C				D			
t.p.	v	con.2	2	3	5	8	10	11	13	16	18	19	21	24	26
v	to	con.1	1	4	6	7	9	12	14	15	17	20	22	23	25
E				F				G				H			
27	29	32	34	35	37	40	42	43	45	48	50	51	53	56	58
	D														
28	30	31	33	36	37	39	41	44	46	47	49	52	54	55	57
								D							
I				K				L				M			
59	61	64	66	67	69	72	74	75	77	80	82	83	85	88	90
					I								D		
60	62	63	65	68	70	71	73	76	78	79	81	84	86	87	89
N				O				P				Q			
91	93	96	98	99	101	104	106	107	109	112	114	115	117	120	122
92	94	95	97	100	102	103	105	108	110	111	113	116	118	119	121
									I						
R				S				T				U			
123	125	128	130	131	133	136	138	139	141	144	146	147	149	152	154
				C											
124	126	127	129	132	134	135	137	140	142	143	145	148	150	151	153
				D						I		C			
X				Y				Z				AA			
155	157	160	162	163	165	168	170	171	173	176	178	179	181	184	186
				C											
156	158	159	161	164	166	167	169	172	174	175	177	180	182	183	185
BB				CC				DD				EE			
187	189	192	194	195	197	200	202	203	205	208	210	211	213	216	218
188	190	191	193	196	198	199	201	204	206	207	209	212	214	215	217
			C	m											
FF				GG				HH				II			
219	221	224	226	227	229	232	234	235	237	240	242	243	246	247	248
	m							A			m				
220	222	223	225	228	230	231	233	236	238	239	241	244	245	248	247

KK			
249	251	254	256
250	252	253	255
A			

LL			
261	263	266	268
	m		
262	264	265	267

MM			
269	271	274	276
270	272	273	275

NN			
277	279	282	284
			m
			y
278	280	281	283
		A	

OO			
285	287	290	292
286	288	289	291

PP			
293	295	298	300
	m		
294	296	297	299
y			

QQ			
301	303	306	308
302	304	305	307

RR			
309	311	314	316
			m
310	312	313	315

SS			
317	319	322	324
318	320	321	323

TT			
325	327	330	332
326	328	329	331

UU			
333	335	338	340
334	336	337	339

XX			
341	343	346	348
342	344	345	347
		y	

YY			
349	351	354	356
350	352	353	355

ZZ			
357	359	362	364
358	360	361	363
		m	

AAA			
365	367	370	372
366	368	369	371

BBB			
373	375	378	380
374	376	377	379

CCC			
381	383	386	388
382	384	385	387

DDD			
389	391	394	396
390	392	393	395

表 4 : Leviathan, 1651年版の所蔵一覧

所蔵機関	Head		折間違い	Aaa3
		Bの有無		
東北大学	2	×		
関東学園大学				
千葉商科大学	1	×		
放送大学	1	×		
国立国会図書館	1	×		
慶應義塾大学	1	×		
駒澤大学	1	×	A2, A3折間違い	
駿河台大学	1	×		
成蹊大学				
成城大学				
専修大学	1	×		
中央大学	1	×		
東海大学				
東京経済大学	1	×		
東京大学経済学部	1	×		
東京大学文学部社会学研究室	1	×		
日本大学経済学部	1	×		
日本大学法学部	2	×		Aaa3
一橋大学	3	×		
明治大学	1	×		
立教大学	1	×		
早稲田大学	2	×		
神奈川大学				
横浜市立大学	1	×		
日本大学国際関係学部	1	×	A2, A3折間違い	
北陸先端科学技術大学				
名古屋大学	1	×		Aaa3
	1	○		Aaa3
京都外国語大学				
京都大学経済学部	1	×		
京都大学文学部	1	×		
京都産業大学	1	×	A2, A3折間違い	
大阪市立大学	1	×		
大阪経済大学	1	○		
大阪産業大学	1	×		
関西学院大学	3	×		
関西大学	1	×		
近畿大学	1	×		
奈良大学	1	×		
広島経済大学	1	×		
高知大学				
Pforzheimer	1	○		Aaa3
Scola ed.	1	×		Aaa3

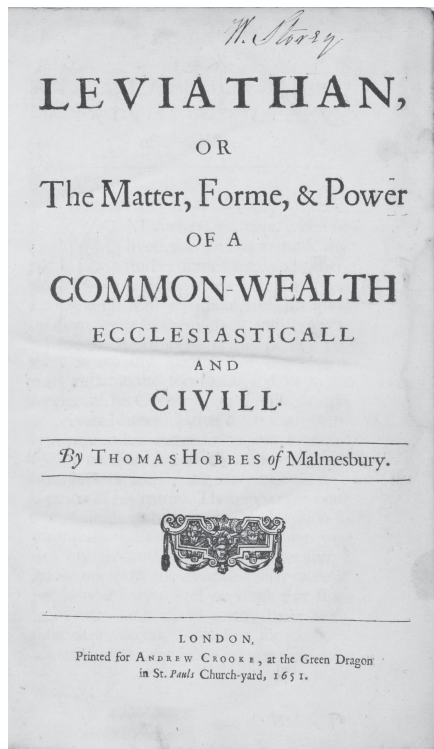


图1 : *Leviathan*, 1651年 (Wing H2246)
(名古屋大学附属図書館蔵)

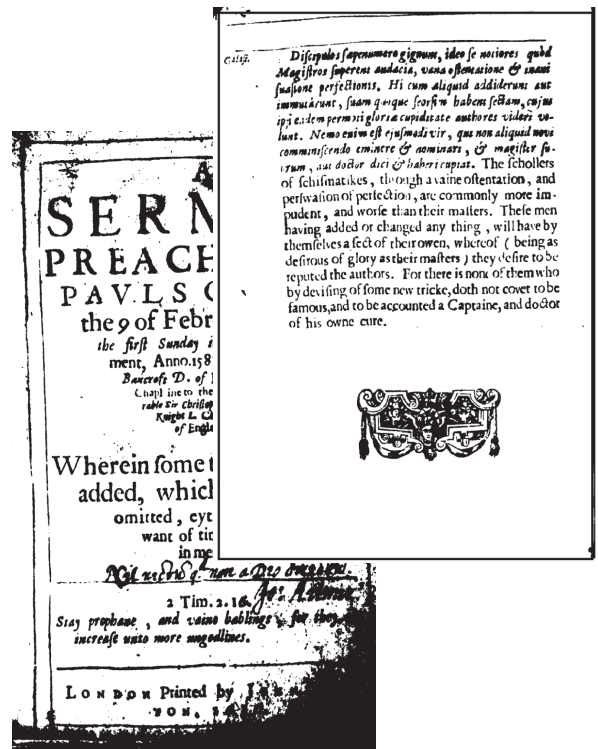


图2 : *A sermon* (STC 1349, 1636年)

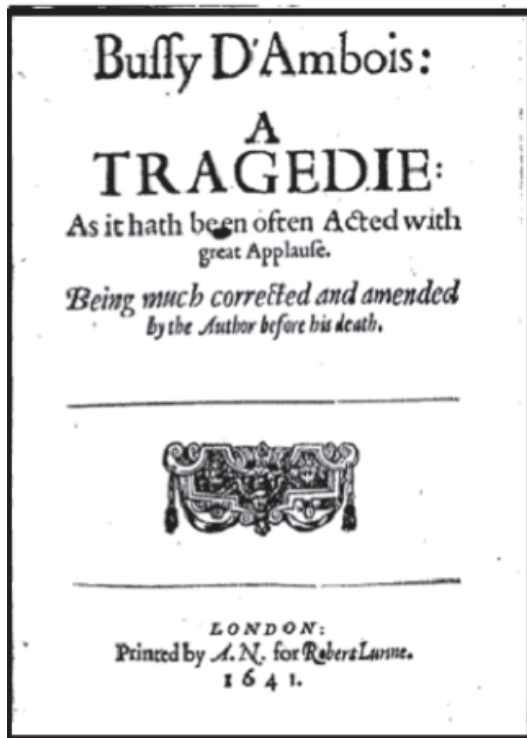


图3 : *Bussy D'Ambois*
(Wing C1641, 1641年)

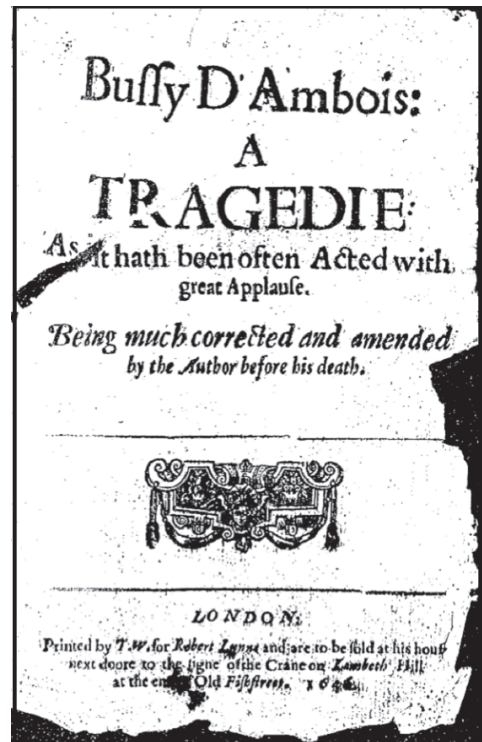


图4 : *Bussy D'Ambois*
(Wing C1943, 1646年)

Return 13
16

M

THE
HISTORY
OF
IMBANKING AND DRAYNING
OF DIVERS
Fens and Marshes,
Both in
FOREIN PARTS
AND IN THIS
KINGDOM,

And of the Improvements thereby.

EXTRACTED FROM
Records, Manuscripts, and other Authentick Testimonies,

BY
WILLIAM DUGDALE Esquire,
SERVANT OF HIS MAJESTY King of Arms.

LONDON;
Printed by Alice Warren, in the Year of our Lord
MDCLXII.

Jurats, and the Commonalty of the said County of Kent, in the County of Kent, for ever. And that the said Bayliff, Jurats, and Commonalty shall have a continual jurisdiction, and they and their faceffors for ever called, termed and named by the name of the Bayliff, Jurats and Commonalty of Kent, in the County of Kent, in every of the said King's Courts, and the Courts of his Heirs and Successors, and in all other Courts and places whatsoever, which said Bayliff and Jurats, to be elected in the memory and form, as also exercise their Offices, and be displaced from them, as heretofore it was wont and accustomed to be in the said Marsh.

And moreover, that the said Bayliff, Jurats and Commonalty, and their Successors shall have a certain Court before them the said Bayliff and Jurats of the said Marsh, for the time being, the time, to be held from three weeks to three weeks for ever. And have full power and authority, to hear and determine in the said Court, by Bills of complaint therein, all and singular Pleas of Debt, Accounts, Covenants, Contracts, Trespasses, by force and Arms, or otherwise in conscience of the said King, or his Heirs; with many other Liberties and Privileges, of which for brevity I omit the rehearsal, referring my Reader to the Record * itself, if he desire to be further informed therein.

And likewise the said King, for himself and his Heirs, then granted to the said Bayliff, Jurats and Commonalty, and their faceffors, that they shall from time to time have power to make, makeable Ordinances and Constitutions, of good credit, and consonant to reason, for the common good of the said Marsh, as also for the good and wholesome Government thereof; and for the common profit of the Inhabitants and residents therein; to make use of them and put them in execution, within the bounds and limits thereof: And likewise to change them and survey of them, for as they shall see best. And that the said Bayliff, Jurats, and Commonalty, and their faceffors, for the necessities and profits relating to the said Marsh, shall amongst themselves effect and levy Taxes, and lay imposition upon the Goods, Lands, Tenements and Merchandises of the Inhabitants and residents, being within the bounds and limits of the said Marsh; and otherwise, as it shall seem best to them, without the let, or impediment of the said King or his Heirs, or his or their Justices, or other their Officers whatsoever.

And moreover granted to the said Bayliff, Jurats and Commonalty, and their faceffors, that none of them, or of their heirs and faceffors, themselves should be put or imprisoned in any Muzzes, Jails, Recognitions, Arrests, or any other Imprisonment whatsoever, out of the bounds and limits of the said Marsh; nor to be compelled to go out of their bounds or limits, to trail on any Jails, Imprisonments, Arrests, Recognitions, Arrests, or matters whatsoever, although they concern the said King, or his Heirs. Nor that any of them shall be made an Assize, Taxes, or Collector of Tolls, or any other Office, or any parcel thereof, of any such Charges, Subsidy, Tollage &c. whatsoever.



F 2

CAP.

图 5 : The history of imbanking and drayning. (Wing D2481) (1662年)

STANBRIG
EMBRION RELIMATV.

S E U

Vocabularium metricum ol:
JOHANNIS STANBRIGIO
digestum,

Nunc vero locupletatum, defecatum, legit
non rotundo plerumque carmine exult
in majorem Pueritia balbutientis usu
undeque aaccommodatum, ex
trema opera & industria
JOH. BRINSLEY.



LONDON,

Printed by T.W. for The Knight, and are to be sold
by Andrew Crouke, at the green Dragon in
St. Pauls Church-yard, 1649.



Sicut paucis ingenius & ingeniosus lector
quid in quarta hac editione accessit novi
operarum mendæ; quæ irreferant, emacu
lantur non pauca; bis costâ eorundem vocaba
rum crambe parcius apponitur; vocabula extra
stationes suas palantia, sub propriis jam vexillis
militant; versus denique podagrici persaniunt
illâ, qui remedium non egre advertebant; de
p
ratis autem & contumacibus malignata adme
vere operæ pretium non fuit; satis esse duximus,
se ad usum libri indicaretur, ubi citissimum labo
r. Nec putamus tamen istâ editâ re quaque
vobis hinc; adhuc enim sunt quæ feliciter ma
nent. ESCALAPUM.



图 6 : 1649年のオーナメント (Strabrigii Embrion relimatvm) (Wing S5199)



図7：1641年のオーナメント
(*A large supplement*) (Wing B462)
(名古屋大学附属図書館蔵)



図8：1642年のオーナメント
(*The Irish occurrence*) (Wing I1042)



図9：1645年のオーナメント
(*The city alarum*) (Wing C4346)



図10：1651年のオーナメント
『リヴァイアサン』 (Wing H2246)
(名古屋大学附属図書館蔵)



図11：1662年のオーナメント
(*The history of imbanking*)
(Wing D2481)

LONDON
Printed by BONHAM
NORTON, and JOHN BILL,
Printers to the Kings most
Excellent Maieftie.
M.DC. XIX.



図12：1619年のボナムの
ヘッド・オーナメント
(*A meditation vpon the Lords prayer*)
(STC 14384)
(Bonham Norton)



図13：1654年のロジャーのヘッド・オーナメント
(*Tessera Romana*) (Wing M126)
(Roger Norton)



図14：1585年のC. バーカーのヘッド・オーナメント
(*Delle caggioni*) (STC 9193)



図15：1596年のC. バーカーのヘッド・オーナメント
(*The examination of Mr. Thomas Cartwrights*)
(STC 23463)



THE
INTROD

NATURE (the *f* governes the in many other that it can me fecing life is l gining where within; why n (Engines that wheeles as doth a watch) have : *Heart*; but a *Spring*; and the *Nert Joynts*; but so many *Wooeles*; givi such as was intended by the *Artificers* are good for *Animas*; imitating that *Rational* and most excellent worke of Nature, *Man*. For by *Art* is created that great *LEVIATHAN* called a *COMMON-WEALTH*, or *STATE*, (in latine *CIVITAS*) which is but an *Artificiall Man*; though of greater stature and strength than the *Naturall*, for whole protection and defence it was intended; and in which, the *soveraignty* is an *Artificiall Soul*, as giving life and motion to the whole body; The *Magistrates*; and other *Officers* of *Judicature* and *Execution*; *artificiall Joynts*; *Reward* and *Punishment* (by which fastned to the seate of the *Soveraignty*, every joynt and member is moved to performe his duty) are the *Nerves*; that do the same in the *Body Naturall*; The *Wealth* and *Riches* of all the particular members, are the *Strengths*, *Salus Populi* (the *peoples safety*) its *Businesse*; *Conseillers*, by whom all things needfull for it to know, are suggested unto it, are the *Memory*; *Equity* and *Lawes*, an *artificiall Reason* and *Will*; *Concord*, *Health*; *Sedition*, *Sicknesse*; and *Civill war*, *Death*. Lastly, the *Pacts* and *Covenants*, by which the parts of this *Body Politique* were at first made, fet together, and united, resemble that *Fiat*, or the *Let us make man*, pronounced by *God* in the *Creation*.



図16 : 『リヴァイアサン』 (Wing H2246)
(1651年)
(名古屋大学附属図書館 水田文庫)



TO
RIGHT HO
and most truly
CHRIST
LORD H.
Baron HATTO

MY LORD,

WHEN interest divides the Church, and the calentures of men breathe out in problemes and unactive discourses, each part in pursuance of its owne portion followes that proposition which complies with, and bends in all the flexures of its temporall ends; and while all strive for truth, they hug their owne opinions dressed up in her imagery, and they dispute for ever, and either the question is indeterminable, or



図17 : *The great exemplar of sanctity and holy life* (Wing T342) (sig. a1r)
(1649年) (Roger Norton)



THE PR

READER, here is o
humous Work of
Bishop, one of the
Church of Christ
and the Glory of
he lived; A Worl
ceptance, in Respe^t both of th
which it handles.

Of the first I shall need to fi
Bishop Andrews proclaiming mo
he was a judicious, profound, anc
vine, an eminent Preacher, a lea
Linguist, a curious Critick, a li
lars, the Oracle of our Church;
preferred knowledge, and at whose mouth the Law was to
be fought. What admirable height of Learning, and depth
of Judgement, dwelt in that Reverend Prelate, he that
would know, may read in those living Images of his Soul:
And as his other works praise him in the gate, so this which
is now presented to thee, though compos'd in his younger
years, when he was Fellow of Pembroke Hall in Cam-
bridge, will demonstrate, that the Foundations were
then laid of those great Parts and Abilities, wherewith
he was furnish'd, when he came to the Episcopall Chair,
and the ground work of all those other learned La-
bours, wherewith he afterwards enrich'd the Church; for
in these Lectures, or Colledge Exercises (which were heard
with the publick applause of the whole University, where
scarce any pretended to the Study of Divinity, who did
not light their Candle at his Torch) it will appear, that
he had even then, gone through the whole Encyclopedic of
Divine



图18 : *The pattern of catechistical doctrine*
(Wing A3147) (sig. *1r)
(1650年) (Roger Norton)

A		I SERM. I.
B	<p>Sermon VVHITSV OF TH SPIRIT OF</p>	
C	<p>S. Romans. v But ye are not in the flesh, but in Spirit of God, dwell in you. the Spirit of Christ, he is non in you, the body is dead because of sin, but the Spirit is life, because of righteousness.</p>	
D	<p>THe day in which the Church commemorates the descent of the Holy Ghost upon the Apostles was the first beginning of the Gospel of Jesus Christ. This was the first day that the Religion was pro- fessed: now the Apostles first open'd their com- mission, and read it to all the people. [The Lord gave his spirit] or [the Lord gave his word] and great was the company of the preachers. For so I make bold to ren- der that prophetic of David, Christ was the word of God, <i>verbum aeternum</i> but the Spirit was the word of God, <i>verbum vite saltem</i>: Christ was the word manifested in the flesh; the Spirit was the word manifested to flesh, and set in dominion over, and in hostility a- gainst the flesh. The Gospel and the Spirit are the same thing; not in substance; but the manifestation of the Spirit is the Gospel of Jesus Christ; and because he was this day manifested, the Gospel was this day first preached, and it became a law to us, called the law</p>	
E	<p>A <small>* Rom. 8. 2.</small></p>	



图19 : *XXVIII sermons* (Wing T405)
(sig. A1r) (1651年) (Roger Norton)

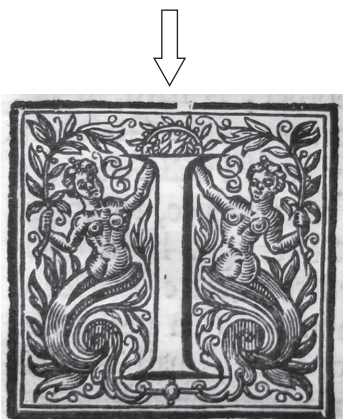


図20 : Mermaid I
『リヴァイアサン』
(名古屋大学附属図書館蔵)

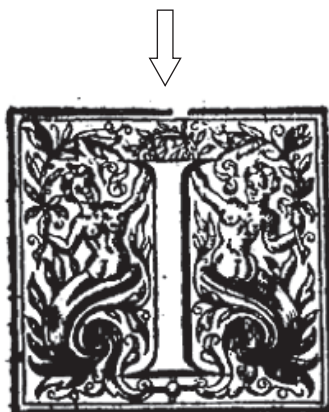


図21 : Mermaid I (Cotes)
(The temple)
(Wing L2071)
(1650年)

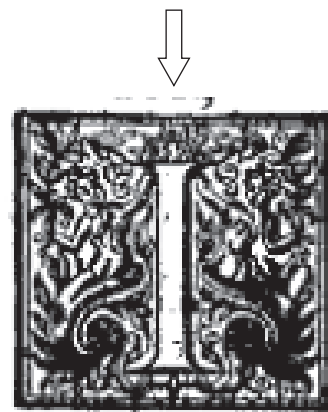
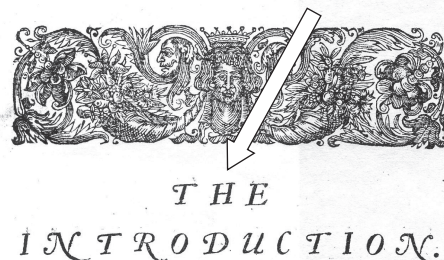


図22 : Mermaid I (Cotes)
(The harmony)
(Wing L2060)
(1650年)



NATURE (the Art whereby God hath made and governes the World) is by the *Art* of man, as in many other things, so in this also imitated, that it can make an Artificial Animal. For seeing life is but a motion of Limbs, the beginning whereof is in some principall part within, why may we not say, that all *Automata* (Engines that move themselves by springs and wheelles as doth a watch) have an artificial life? For what is the *Heart*, but a *Spring*; and the *Nerves*, but so many *Strings*; and the *Joyns*, but so many *Wheeles*; giving motion to the whole Body, such as was intended by the Artificer? *Art* goes yet further; imitating that Rationall and most excellent worke of Nature, *Man*. For by *Art* is created that great LEVIATHAN called a COMMONWEALTH, OF STATE, (in latine CIVITAS) which is but an Artificiall Man, though of greater stature and strength than the Naturall, for whose protection and defence it was intended; and in which, the *Soveraignty* is an Artificiall *Soul*, as giving life and motion to the whole body; The *Magistrates*; and other *Officers* of Judicature and Execution, artificiall *Joyns*; *Reward* and *Punishment* (by which fastned to the seate of the *Soveraignty*, every joynt and member is moved to performe his duty) are the *Nerves*; that do the same in the Body Naturall; The *Wealth* and *Riches* of all the particular members, are the *Strength*, *Salus Populi* (the peoples *safety*) its *Businesse*, *Counsellors*, by whom all things needfull for it to know, are suggested unto it, are the *Memory*, *Equity* and *Lawes*, an artificiall *Reason* and *Will*, *Concord*, *Health*, *Sedition*, *Sickness*, and *Civill war*, *Death*. Lastly, the *Pacts* and *Covenants*, by which the parts of this Body Politique were at first made, set together, and united, resemble that *Fiat*, or the *Let us make man*, pronounced by God in the Creation.

図23 : 修正前『リヴァイアサン』
(名古屋大学附属図書館水田文庫)



NATURE (the Art whereby God hath made and governes the World) is by the *Art* of man, as in many other things, so in this also imitated, that it can make an Artificial Animal. For seeing life is but a motion of Limbs, the beginning whereof is in some principall part within, why may we not say, that all *Automata* (Engines that move themselves by springs and wheelles as doth a watch) have an artificial life? For what is the *Heart*, but a *Spring*; and the *Nerves*, but so many *Strings*; and the *Joyns*, but so many *Wheeles*; giving motion to the whole Body, such as was intended by the Artificer? *Art* goes yet further; imitating that Rationall and most excellent worke of Nature, *Man*. For by *Art* is created that great LEVIATHAN called a COMMONWEALTH, OF STATE, (in latine CIVITAS) which is but an Artificiall Man, though of greater stature and strength than the Naturall, for whose protection and defence it was intended; and in which, the *Soveraignty* is an Artificiall *Soul*, as giving life and motion to the whole body; The *Magistrates*, and other *Officers* of Judicature and Execution, artificiall *Joyns*; *Reward* and *Punishment* (by which fastned to the seate of the *Soveraignty*, every joynt and member is moved to performe his duty) are the *Nerves*; that do the same in the Body Naturall; The *Wealth* and *Riches* of all the particular members, are the *Strength*, *Salus Populi* (the peoples *safety*) its *Businesse*, *Counsellors*; by whom all things needfull for it to know, are suggested unto it, are the *Memory*, *Equity* and *Lawes*, an artificiall *Reason* and *Will*, *Concord*, *Health*, *Sedition*, *Sickness*; and *Civill war*, *Death*. Lastly, the *Pacts* and *Covenants*, by which the parts of this Body Politique were at first made, set together, and united, resemble that *Fiat*, or the *Let us make man*, pronounced by God in the Creation.

図24 : 修正後『リヴァイアサン』
(名古屋大学附属図書館ホップス文庫)